

雌阿寒岳

1 平成 16 年の活動概況

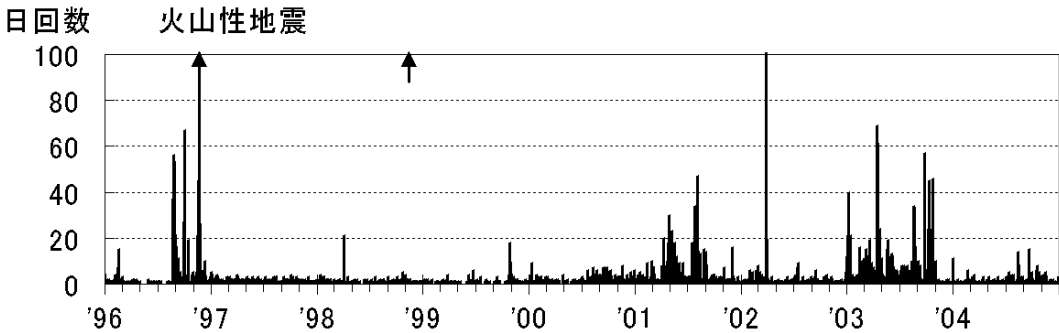
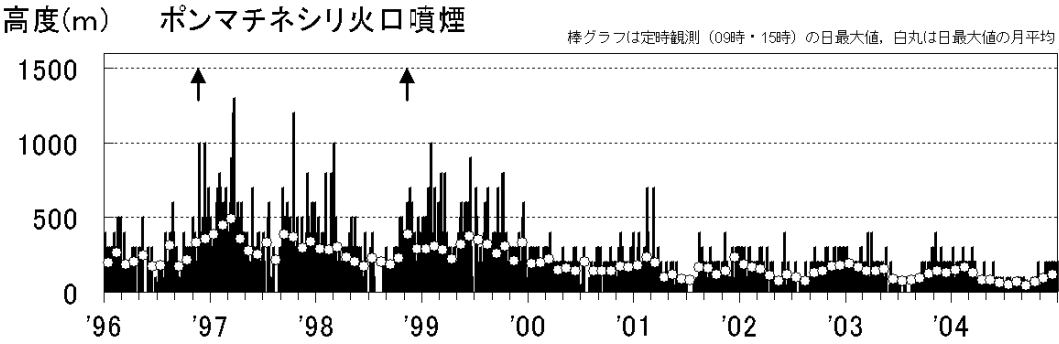
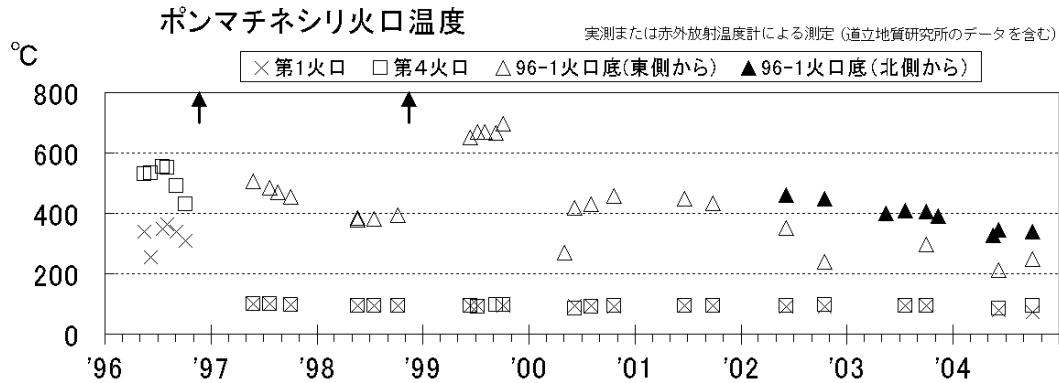
ポンマチネシリ 96-1 火口は、2000 年以降噴煙活動がやや弱い状態となりましたが、火口温度は 300 以上と高温の状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しました。火口近傍では引き続き注意が必要です。

○平成 16 年の主な火山活動と火山情報の発表状況

時期	火山活動	火山情報発表状況
	特記事項なし	発表なし

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動は 2000 年以降やや弱い状態が続いており、噴煙高度はおおむね 100～200m で経過しました。



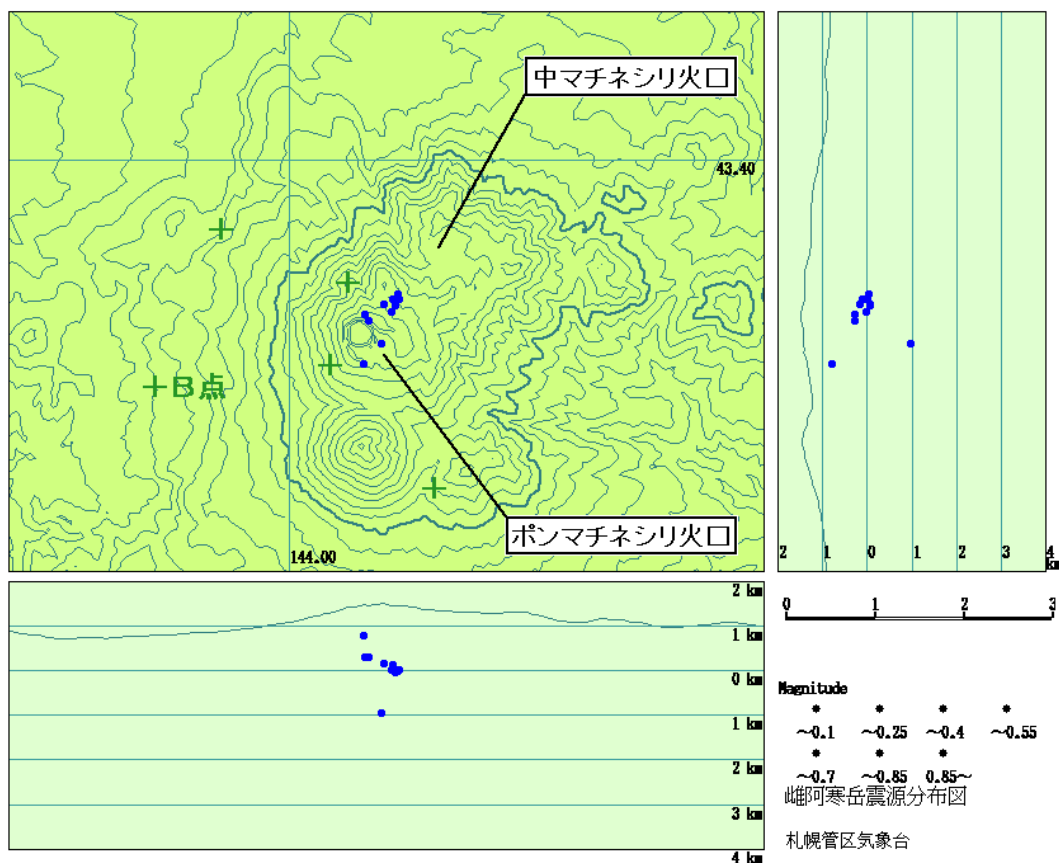
最近の火山活動経過図（1996 年 1 月 1 日～2004 年 12 月 31 日） ↑ は噴火

3 地震活動の状況

地震活動は静穏に経過しました。2003 年 11 月以降地震回数の少ない状態が続いており、火山性微動の発生もありませんでした。

地震・微動の月回数（B点）

2004 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	19	20	17	15	16	17	33	52	42	40	28	9
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：観測点）

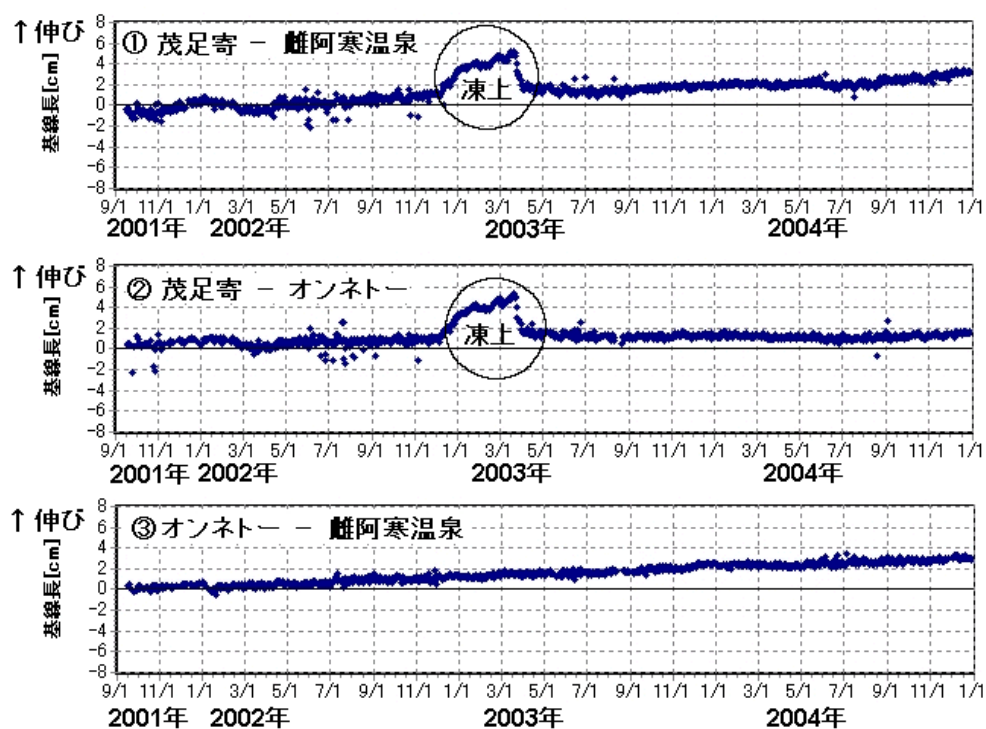
青丸は2004年10月5日～12月31日に求まった震源を示しています。

震源はポンマチネシリ火口北側の海拔付近に集中しています。

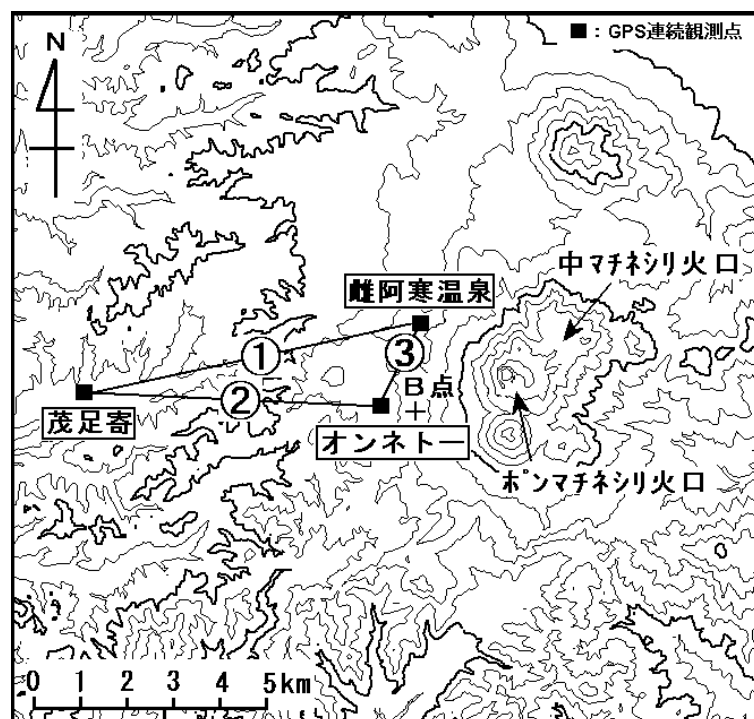
2004年10月5日に南岳に地震計を設置したことに伴い、震源決定が可能になりました。

4 地殻変動の状況

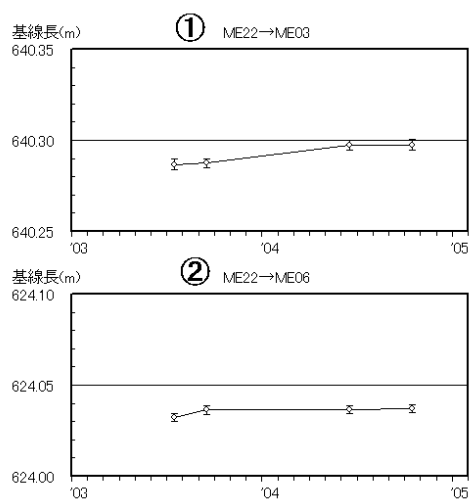
G P S 連続観測では西側山麓でやや伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



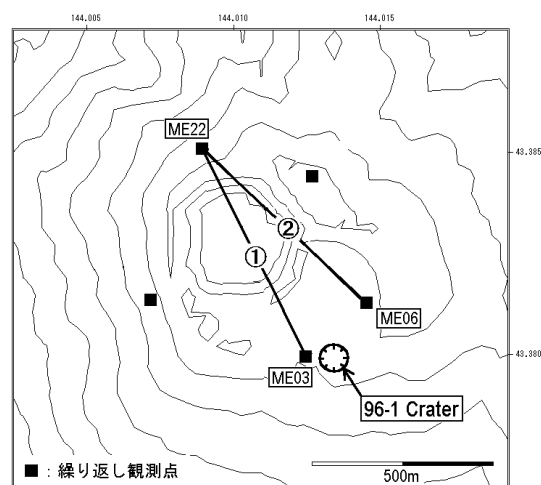
基線長変化（2001年9月19日～2004年12月31日）



G P S 繰り返し観測では、ポンマチネシリ火口を囲む基線では観測誤差を上回る有意な変動は認められませんでした。



ポンマチネシリ火口周辺の基線長変化



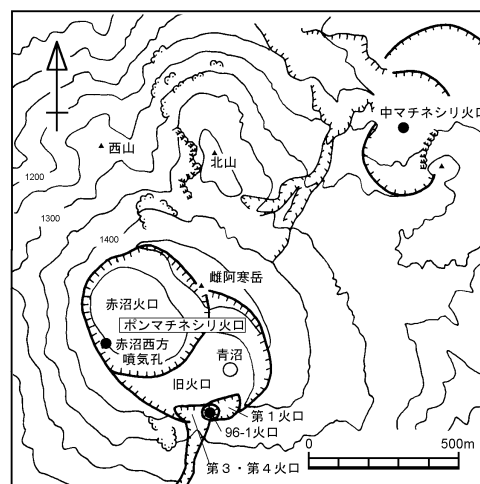
山頂 G P S 繰り返し観測位置

5 調査観測の結果

6 月及び 10 月に実施した調査観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口の火口温度は、約 350 と引き続き高温の状態が続いていました。赤外熱映像装置による観測では、高温域の拡大は認められませんでした。その他の火口でも大きな変化は見られませんでした。



96 - 1 火口底の状況（10 月 1 日：北側から撮影）



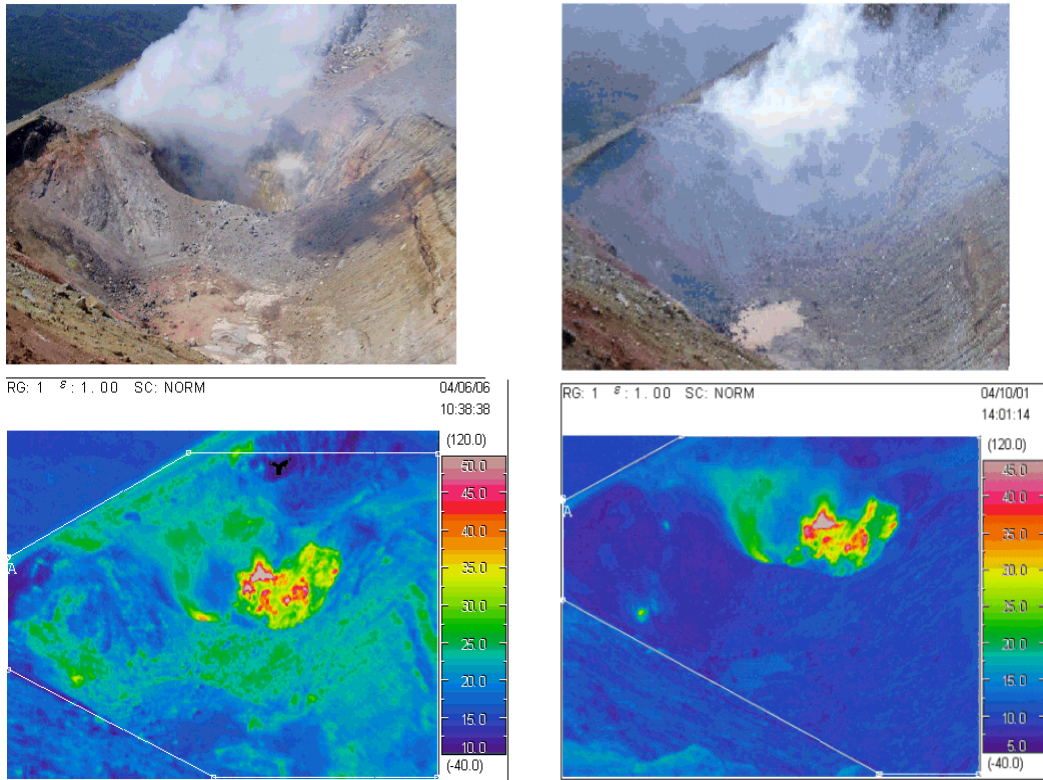
雌阿寒岳火口周辺図



赤沼西方噴気孔（10 月 1 日：東側から撮影）



中マチネシリ（10 月 1 日：山頂から撮影）

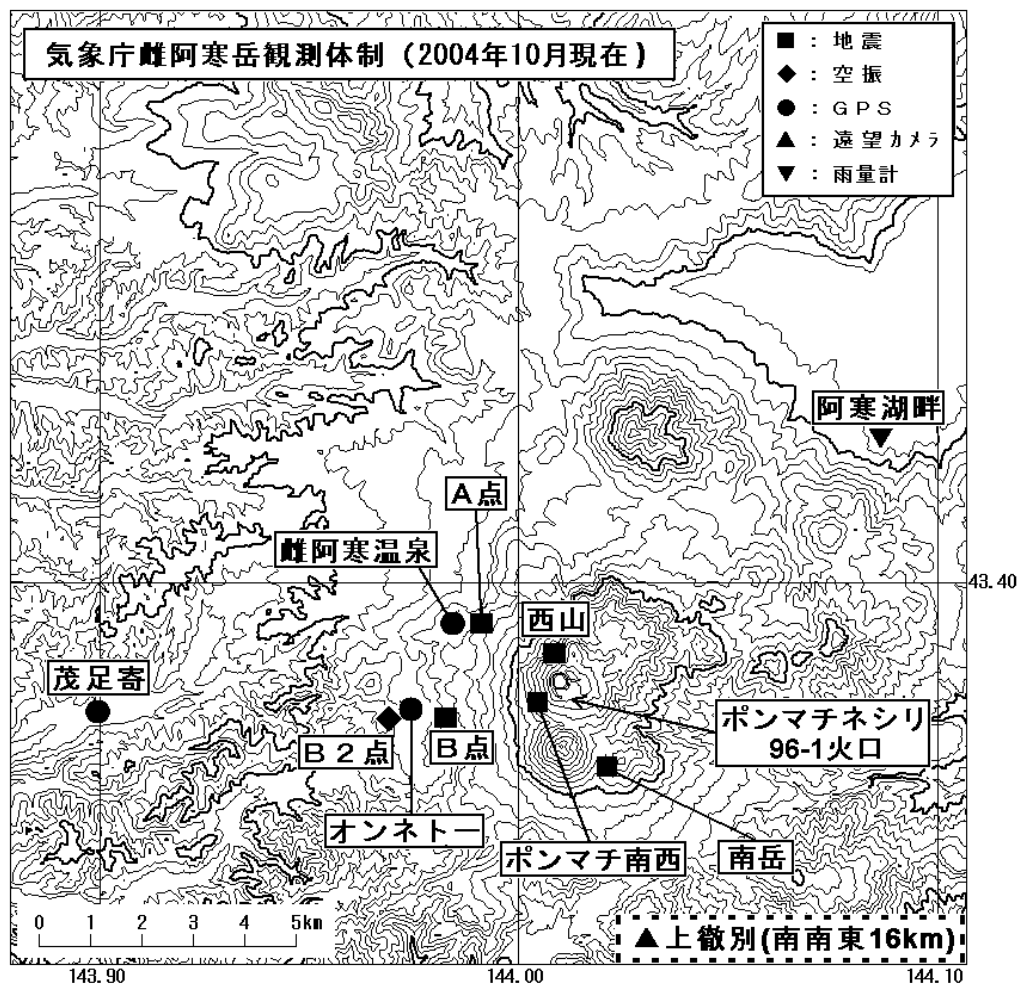


赤外熱映像装置による 96 - 1 火口および第 1 火口内部の表面温度分布
（左図：2004 年 6 月 6 日 右図：2004 年 10 月 1 日）

6 上空からの観測結果

北海道開発局の協力により、6 月 2 日、7 月 15 日にそれぞれ上空からの観測を実施しました。各火口の噴煙は平常時と比べて特段の変化はなく、熱活動の新たな高まりは認められませんでした。

観測点情報



観測点一覧表 雌阿寒岳

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始 年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
■	地震計	A点	43 23.6	143 59.4	740	0	1981年1月
		B点	43 22.6	143 58.9	680	-1	2000年11月
		西山	43 23.3	144 00.5	1275	0	2001年11月
		ポンマチ南西	43 22.8	144 00.3	1265	0	2003年6月
		南岳	43 22.0	144 01.2	1096	-1	2004年10月
	空振計	B 2 点	43 22.7	143 58.6	636	2	2000年11月
▲	遠望カメラ	上徹別	43 15.6	144 07.0	145	4	1996年4月
●	GPS	オンネトー	43 22.7	143 58.6	636	8	2001年9月
		茂足寄	43 22.7	143 53.9	354	3	2001年9月
		雌阿寒温泉	43 23.5	143 59.2	719	4	2001年9月

（位置は日本測地系の値です）